

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子
HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>



< 11 月号 >

令和3年10月29日

TEL 03-3977-2711

校長 繁田 幸江

第128号

「旬」

副校長 川村 豊

11月は、秋が深まり冬への移行の時期です。11月7日頃「立冬」を迎え、日毎に寒さも身にしみる季節。木枯らしが吹き、落ち葉が舞い散る様子に、もの寂しさを感じる季節でもあります。日本では、旧暦11月を『霜月（しもつき）』と呼び、現在では新暦11月の別名としても用いています。「霜月」は文字通り霜が降る月の意味です。11月7日は二十四節気の一つ立冬に当たります。この日から暦の上では立春前日（節分の日）まで冬になります。

また、「霜月」は霜が降り始める頃という意味があります。虫や動物たちが冬眠に入るのもこの頃。冬の訪れを感じさせます。11月の行事は、秋の収穫を祝い感謝する酉の市（とりのいち）、毎年11月23日に宮中や全国の神社で行われる新嘗祭（にいなめさい）などがあります。

日本という国には四季があります。日本人は昔から季節が移り替わるのを楽しみ、生活に生かしてきました。特に食べ物によく表れているようで、「旬」という言葉に代表されます。

「旬」とは自然の中でふつうに育てた野菜や果物がとれる季節や、魚がたくさんとれる季節のことで、食べ物によってその時期は違いますが、いちばんおいしくて栄養もたっぷりです。秋は食欲の秋ともいわれるように食べ物のおいしい季節です。魚では「さんま」「はぜ」「きびなご」「するめ烏賊」など、野菜は「まつたけ」「しいたけ」「かぶ」「ごぼう」「セロリ」など、ほかにもたくさんあります。旬のものを食べることで、自然のめぐみや四季の変化も感じることができます。

学校で子どもたちと生活していると、児童の育成についても「旬」があることに気づきます。「鉄は熱いうちに打て」と言いますが、教育活動にもあてはまります。調べてみたらこんなことが書かれていました。

「鉄は灼熱（しゃくねつ）した柔らかいうちに、さまざまの形に鍛えあげることから」何事も時期を選ぶことが大切で、人間も純粋な気持ちを失わない、若いうちに鍛えるのが肝心であることをいう。また、関心や情熱の薄れないうちに、早いところ実行に移すのがよいことにたとえる。

毎日の学習や基本的な生活習慣。子どもたちにとっては様々なものを吸収して成長していける「旬」が今なのです。テレビの話ではありませんが「今でしょ」ということです。子どもたちは日々成長しています。学校では、この成長の変化を見守り、ほめ、認め、伸ばしていけるよう指導を続けていきます。ご家庭におかれましても子どもたちを見守り、共に伸ばしていけるようよろしくお願いいたします。